

## 檜山01の結果概要 栄浜 1409 林班に小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
ブナ林	尾根	北西	2/1/1	1/2/2	H22.8.26/H30.7.9/R5.9.5
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	93/66/58	58/29/22	0:55/13:48/6:28		0%/27%(27)/21%(18)
毎木	BA (㎡/ha)	樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)	
	25.0/30.7/33.7	1 / 6 / 0		1%(0)/-/0%(0)	
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	54 / 26 / 18		30%・78・53%/17%・67・0%/14%・56・0%		39/46/38
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ・		林床食痕率%
	0%/12%(0)/22%(0)		51%・0.35/36.9%・0.18/27.6%・0.14		9%/5%/1%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査(今年度調査は太字)を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

### 毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm2)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ブナ	22	9085	8	2	6
エゾヤマザクラ	4	1463	1		
ミズナラ	2	1119	2		
ホオノキ	2	729	1		2
ナナカマド	1	335	0		
計	58	13476	28	6	15

### 稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数		本数	食痕
	1回目	2回目		
アオダモ	3	4	3	
アカイタヤ	13	11	3	1
アズキナシ		2	3	1
トチノキ	2	2	3	1
ブナ	3	3	3	
総計	27	26	18	4

### 林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
クマイザサ	20	30.3%	16.3%	14.3%	56	0
オオバクロモジ	13	7.4%	2.5%	4.2%	44	0
ヒカゲスゲ	12	4.2%	2.5%	2.3%	20	0
ミヤマガマズミ	7	0.0%	1.4%	1.8%	20	0
アクシバ	7	0.6%	1.0%	0.8%	26	0
シシガシラ	3	1.1%	0.8%	0.8%	18	0
ミヤマカンスゲ	14	2.3%	1.2%	0.6%	15	0



檜山01は、檜山北部のブナ林に設定されており、周囲は常緑針葉樹人工林が広がる。SPUEは2006年以降、2前後の値となっている。ブナの優占度は高いが、エゾヤマザクラやミズナラなどの広葉樹が混生する。今年度の調査では、立木密度、下枝本数とも減少傾向だった。下枝食痕率は21%だった。新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は減少し、食痕率は増加した。林床は、散生するクマイザサにオオバクロモジなどが生育する。クマイザサの被度が初回30%から14%、オオバクロモジも7%から4%にそれぞれ減少し、林床の現存量の指数も大きく低下した。本調査区ではシカの採餌によって、小径木、下枝本数、林床植生にやや影響が生じている。

檜山 02 の結果概要 熊石 1173 林班3小

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林	斜面中部	南西	1/-/1	2/-/2	H22.8.18/-/R5.9.5
毎木	本数密度 (ノ200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	60/-/38	20/-/11	0:36/-/1:20		0%/-/5%(5)
	BA (m/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
19.6/-/20.6		0(0)/-/0(0)		0%(0)/-/0%(0)	
稚樹	本数密度 (ノ200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	21 / - / 5		39%・95・0%/-/51%・143・0%		14/-/20
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%
0%/-/0%	49.9%・0.46/-/62.6%・0.81		0%/-/0%		

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm2)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ブナ	23	7036	12		
コシアブラ	1	379	0		
ハウチワカエデ	8	373	7	1	
ウダイカンバ	1	199	0		
アカイタヤ	1	102	0		
合計	38	8220	21	1	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数		食痕	
	1回目	2回目	3回目	3回目
ハウチワカエデ	15		3	
アカイタヤ			1	
トドマツ			1	
ブナ	5			
ベニイタヤ	1			
総計	21		5	



林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
チシマザサ	20	39.0%		51.0%	143	0
ヒメアオキ	8	3.7%		3.4%	39	0
ハウチワカエデ	5	2.0%		2.4%	78	0
ツルシキミ	10	1.4%		2.3%	29	0
ハイヌガヤ	13	1.7%		2.2%	23	0
アカイタヤ	5	0.3%		0.7%	34	0
ハイヌツゲ	5	0.1%		0.2%	19	0

檜山 02 は、渡島署西部のトドマツ人工林に隣接するブナ林に設定されている(白泉岳登山道沿い)。前回檜山地区の調査時は対象から外れており、初回以来の調査となる。ブナの優占度は高く、亜高木層以下にその他の広葉樹が生育する。林床はチシマザサが優占し、ヒメアオキ等の低木類などが生育する。立木密度、下枝本数とも大きく減少した。下枝食痕率は21%、新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は大きく減少したが、食痕率は0だった。チシマザサの被度が初回39%から51%に増加し、林床の現存量の指数も大きく増加した。本調査区では現時点でシカの影響は見られない。

## 檜山 03 の結果概要 熊石 1294 林班と小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林	斜面上部	南西	1/-/1	2/-/2	H22.8.20/-/R5.9.5
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	84/-/62	48/-/28	0:58/-/0:30		0%/-/0%(0)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	32.7/-/38.1		0(0)/-/0(0)		0%(0)/-/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	23 / - / 1		10%・88・0%/-/14%・109・0%		23/-/32
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%
	0%/-/0%(0)		61.5%・0.30/-/84.5%・0.58		0%/-/0%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

### 毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm <sup>2</sup> )	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ブナ	8	9897	5		
アカシデ	2	1804	0		
ミズナラ	7	1729	3		
ヤマモミジ	8	935	3		
ハウチワカエデ	21	503	11		
合計	62	15248	30		



### 稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数		本数	食痕
	1回目	2回目		
サワシバ	8		1	
ミズナラ	5			
アオダモ	2			
アズキナシ	2			
ホオノキ	2			
総計	23		1	



### 林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数	被度%			高さcm	食痕数
		3回目	1回目	2回目		
ミヤマカンスゲ	12	13.9%		20.5%	25	0
チシマザサ	19	10.1%		14.4%	109	0
ハイイヌガヤ	19	8.4%		14.3%	46	0
シシガシラ	13	6.8%		7.1%	21	0
ヤマツツジ	7	3.8%		6.5%	134	0
ヒメアオキ	7	8.6%		3.6%	24	0
ホツツジ	3			3.5%	160	0

檜山 03 は、渡島署西部のブナ二次林 (瘦尾根) に設定されている。前回檜山地区の調査時は対象から外れており、初回以来の調査となる。ブナが優占し、亜高木層以下にハウチワカエデが多く生育する。林床はチシマザサがまばらで、ミヤマカンスゲなどが生育する。立木密度、下枝本数とも減少した。下枝食痕、新規の樹皮剥ぎはともに見られなかった。広葉樹の稚樹は大きく減少したが、初回は萌芽枝を稚樹に含めていたものと思われる。稚樹の食痕はなかった。チシマザサの被度はやや増加し、林床の現存量の指数も増加した。本調査区では現時点でシカの影響は見られない。

檜山 05 の結果概要 栄浜 1031 林班八小班

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
広葉樹林		平地	-	1/-/1	2/-/2	H22.8.19/-/R5.9.4
毎木	本数密度 (/200 m <sup>2</sup> )		小径木本数		新規食痕数：下枝本数	
	42/-/32		6/-/5		0:27/-/2:10	
	0%/-/0%(0)		0%/-/0%(0)		0%/-/20%(10)	
稚樹	BA (m <sup>2</sup> /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)	
	29.1/-/29.6		0(0)/-/0(0)		0%(0)/-/0%(0)	
	0%/-/0%(0)		0%/-/0%(0)		0%/-/0%(0)	
林床	本数密度 (/200 m <sup>2</sup> )		ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数	
	14 / - / 1		15%・146・0%/-/37%・182・0%		12/-/21	
	0%/-/0%(0)		47.2%・0.33/-/97.3%・0.97		0%/-/1%	
稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%		
0%/-/0%(0)		47.2%・0.33/-/97.3%・0.97		0%/-/1%		

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査（今年度調査は太字）を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンバ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm <sup>2</sup> )	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ミズナラ	6	5770	3		
アカイタヤ	11	3485	0		
ヤマモミジ	1	1026	0		
ブナ	3	1000	0		
ホオノキ	1	268	0		
合計	32	11845	10	2	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数		本数		食痕
	1回目	2回目	3回目	3回目	
ハウチワカエデ	5		1		
ミズナラ	3				
アオダモ	2				
アズキナシ	1				
ウワミズザクラ	1				
総計	14		1		

林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
チシマザサ	20	14.8%		37.1%	182	0
ヒメアオキ	18	8.4%		19.1%	41	0
エゾユズリハ	14	12.3%		13.8%	40	0
ツルシキミ	16	5.3%		10.5%	35	0
ハイヌガヤ	19	4.7%		6.7%	35	0
オオカメノキ	12	0.6%		5.1%	49	0
ハリウツギ	3	0.3%		2.7%	128	1



檜山 05 は、渡島署西部の町道沿いの広葉樹二次林に設定されている。前回檜山地区の調査時は対象から外れており、初回以来の調査となる。ミズナラが優占し、アカイタヤやブナが混生する。林床はチシマザサが優占し、ヒメアオキ等の低木類が生育する。今年度の調査では、立木密度、下枝本数とも減少した。下枝食痕率は20%、新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は大きく減少したが、食痕率は0だった。チシマザサの被度が初回15%から37%に増加し、林床の現存量の指数も大きく増加した。本調査区ではシカの食痕は見られるが、現時点で影響はまだ小さい。

檜山 08 の結果概要 南館 233 林班か小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
ブナ林	平地	-	1/1/1	1/2/2	H22.8.29/H30.7.9/R5.9.6
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	46/43/44	19/20/19	0:32/0:26/1:28		0%/0%(0)/4%(4)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	42.7/29.0/32.9		0(0)/1(0)/0(0)		0%(0)/2%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	44 / 14 / 11		54%・102・0%/33%・114・0%/30%・114・0%		16/21/21
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%
	0%/0%(0)/36%(0)		119.7%・0.83/90.1%・0.76/83.9%・0.69		0%/1%/4%

※数値は左から、初回調査/2 回目調査/3 回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm2)	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ブナ	5	5085	2		
ミズナラ	5	4371	1		
アカイタヤ	3	1431	1		
ホオノキ	3	1080	2		
アズキナシ	1	568	1		
合計	44	13158	28	1	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
ブナ	9	7	5	
ハウチワカエデ	9	2	2	2
トドマツ	1	2	2	
ミズナラ	2	2	1	1
ヤマモミジ			1	1
総計	22	14	11	4



林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
クマイザサ	20	53.8%	29.4%	29.8%	114	0
オオカメノキ	19	20.6%	25.3%	24.2%	53	1
ハイイヌツゲ	19	10.0%	13.0%	11.3%	33	0
エゾユズリハ	16	15.5%	6.9%	8.5%	30	0
オオバクロモジ	3	2.8%	1.8%	2.1%	68	0
トドマツ	2	1.0%		1.9%	81	0
ヒメモチ	12	1.0%	0.4%	1.8%	25	1

檜山 08 は、厚沢部地区のブナ林に設定されている。ブナに加えて、ミズナラ、アカイタヤなどの広葉樹が混生する。林床は、散生するクマイザサにオオカメノキなどの木本類が混じる。

今年度の調査では、立木の本数密度、下枝本数ともほとんど変化しなかった。下枝食痕率は4%で、新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹はやや減少し、食痕率は36%だった。林床のクマイザサの被度は30%で、林床の現存量の指数も減少傾向だった。ササの食痕率は0%だった。本調査区では稚樹や低木類にシカによる食痕が認められるが、林分構造や林床植生への影響はまだほとんど見られない。

檜山 10 の結果概要 鷲町 514 林班ほ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
ブナ林	尾根側斜面	北	1/1/1	1/2/2	H22.9.2/H30.7.13/R5.9.6
毎木	本数密度 (／200 m)	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	63/56/51	39/31/26	1:47/0:40/1:33		2%/0%(0)/3%(3)
稚樹	BA (m <sup>2</sup> /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	19.5/19.4/20.5		0(0)/0(0)/0(0)		0%(0)/0%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (／200 m)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	58 / 19 / 19		26%・82・14%/34%・97・0%/41%・93・0%		35/35/39
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%
	0%/5%(0)/0%(0)		75.2%・0.58/81.1%・0.73/80.4%・0.71		3%/1%/2%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシバ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm <sup>2</sup> )	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ブナ	32	6826	18	1	
ケヤマハンノキ	1	1152	1		
ハウチワカエデ	12	119	10		
アカイタヤ	2	54	1		
アズキナシ	2	38	2		
合計	51	8208	33	1	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
ブナ	11	7	9	
ハウチワカエデ	9	1	2	
アズキナシ	4	4	2	
アカイタヤ	3	2	2	
ホオノキ		1	2	
総計	29	19	19	



林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
クマイザサ	20	16.3%	9.7%	26.8%	69	0
チシマザサ	12	9.5%	24.8%	14.1%	133	0
オオカメノキ	16	15.7%	14.5%	12.2%	60	2
オオバクロモジ	13	7.0%	10.4%	10.6%	86	0
ブナ	7	2.8%	3.9%	4.3%	89	0
ホツツジ	8	10.6%	5.5%	3.5%	84	1
ヤマウルシ	3	0.5%	2.4%	2.3%	79	0

檜山 10 は、厚沢部地区のブナ二次林に設定されている。SPUE は 2006 年以降、2014 年を除き 2 以下となっている。ブナの優占度は高いが、亜高木層以下にハウチワカエデなどの広葉樹が生育する。林床はクマイザサとチシマザサが混じり、オオカメノキなどが生育する。立木の本数密度、下枝本数はともに減少した。下枝食痕率は 3% で、新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は 19 本 /200 m<sup>2</sup> で、食痕はなかった。林床のササ類の被度は増加したが、林床の現存量の指数はほとんど変化しなかった。ササの食痕はない。本調査区ではシカによる植生への影響はまだほとんど見られない。

## 檜山 12 の結果概要 上の国 2082 林班に小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
ブナ林	斜面	南西	1/1/1	1/1/2	H22.8.26/H30.7.10/R5.9.7
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	96/61/60	60/29/23	0:84/2:53/0:47		0%/4%(4)/0%(0)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	18.7/18.4/23.1		0(0)/0(0)/0(0)		0%(0)/0%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	74 / 66 / 50		21%・35・0%/10%・39・0%/12%・32・0%		26/37/40
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%
	0%/0%(0)/6%(6)		71.2%・0.23/43.4%・0.18/53.9%・0.25		0%/0%/0%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシバ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

### 毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm <sup>2</sup> )	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
シナノキ	8	4265	4		
ミズナラ	5	2713	3		
イタヤカエデ	1	774	0		
ブナ	8	555	7		
サワシバ	18	440	16		
合計	60	9227	47		



### 稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数	本数		食痕
	1回目	2回目	3回目	3回目
ハウチワカエデ	9	11	20	2
ブナ	5	4	11	
サワシバ	11	8	6	
ヤマモミジ	2	3	6	
イタヤカエデ	6	4	3	
総計	37	33	50	3



### 林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
クマイザサ	20	21.3%	9.9%	12.5%	32	0
ミヤマカンスゲ	9	10.3%	2.4%	8.6%	22	0
サワシバ	12	2.6%	6.2%	6.9%	43	0
ヒカゲスゲ	15	6.3%	4.4%	6.2%	24	0
ハウチワカエデ	5	1.4%	4.6%	5.2%	93	0
ヒメカンスゲ	12	7.5%	3.9%	3.3%	18	0
ミゾシダ	4		1.5%	1.7%	19	0

檜山 12 は、上ノ国地区の林道沿いの広葉樹二次林に設定されている。シナノキが優占し、ミズナラなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生し、ミヤマカンスゲなどが混生する。

立木の本数密度は前回から大きく変化していないが、下枝本数はやや減少した。下枝の食痕、新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は減少し、食痕率は6%だった。林床のクマイザサの被度は12.5%、林床の現存量の指数は前回からやや増加した。ササの食痕率は0%だった。本調査区ではシカによる食痕は見られるものの、林分構造や林床植生への影響はまだほとんど見られない。

檜山 16 の結果概要 木古内 3097 林班ぬ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
ブナ林	尾根筋	北東	1/1/1	1/2/2	H22.8.28/H30.7.12/R5.9.7
毎木	本数密度 (ノ200 m <sup>2</sup> )	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	79/63/54	47/33/29	0:52/0:33/0:24		0%/0%(0)/0%(0)
毎木	BA (m <sup>2</sup> /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	20.2/20.9/22.1		0(0)/0(0)/0(0)		0%(0)/0%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200 m <sup>2</sup> )	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	52 /13/ 14		12%・90・0%/11%・97・0%/14%・123・0%		17/21/23
稚樹食痕率 (夏季%)	総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%		
0%/0%(0)/7%(7)	111.7%・0.76/75.5%・0.62/73.5%・0.70		0%/0%/0%		

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシバ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm <sup>2</sup> )	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ブナ	12	6405	6		
コシアブラ	1	749	0		
ハウチワカエデ	31	539	14		1
ミズナラ	2	488	0		
ホオノキ	1	352	0		
合計	54	8848	24		1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数			食痕 3回目
	1回目	2回目	3回目	
ハウチワカエデ	13	7	5	
ブナ	4	2	4	
アオダモ	2	1	1	
ナナカマド	2		1	
ホオノキ	1		1	
総計	26	13	14	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
リュウブ	19	6.8%	14.4%	14.5%	78	0
オオカメノキ	14	32.1%	16.2%	14.1%	74	0
オクヤマザサ	19	1.3%	8.6%	13.9%	123	0
オオバクロモジ	10	20.8%	9.7%	9.5%	97	0
ツルシキミ	18	12.3%	6.4%	4.5%	27	0
ハイイヌガヤ	8	0.5%	3.1%	2.9%	40	0
ハクサンシャクナゲ	11	2.0%	2.5%	2.9%	36	0



檜山 16 は、木古内地区の林道沿いのブナ林に設定されている。ブナの優占度は高いが、コシアブラやハウチワカエデなどの広葉樹が主に亜高木層以下に生育する。林床はオクヤマザサが散生し、リュウブやオオカメノキなどが混生する。今年度の調査では、立木の本数密度、下枝本数はともに減少した。下枝の食痕、新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は 14 本/200 m<sup>2</sup>で、食痕率は 7% だった。林床のササ被度は 14% で、林床の現存量の指数はやや減少した。ササの食痕率は 0% だった。本調査区ではシカによる林分構造や林床植生への影響は、まだほとんど見られない。



## 檜山 17 の結果概要 吉堀 3205 林班と小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
ブナ林	斜面	北東	1/1/1	2/2/2	H22.8.27/H30.7.12/R5.9.7
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	46/33/31	24/16/15	0:35/0:23/1:17		0%/0%(0)/6%(6)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	29.3/30.2/29.9		0(0)/(0)/0(0)		0%(0)/0%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	15 / 9 / 9		14%・71・0%/13%・113・0%/8%・103・0%		7/26/26
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%
	0%/0%(0)/0%(0)		70.9%・0.42/76.7%・0.75/61.2%・0.70		0%/0%/1%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカンパ類も除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

### 毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm <sup>2</sup> )	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ブナ	23	10837	13		
ミズナラ	1	510	0		
ハウチワカエデ	3	176	3	1	
ホオノキ	1	169	0		
シナノキ	1	136	0		
合計	31	11955	17	1	



### 稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
ブナ	5	6	4	
ハウチワカエデ	3	2	2	
ヤマモミジ	3	1	1	
トチノキ	2		1	
アカイタヤ	2		1	
総計	15	9	9	



### 林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
ハイイヌガヤ	19	32.5%	39.2%	25.6%	91	0
ツルシキミ	10	0.8%		12.2%	92	0
クマイザサ	16	14.0%	9.2%	7.3%	106	0
オオバクロモジ	7	5.0%	6.2%	4.7%	73	0
シシガシラ	6	1.5%	5.0%	4.5%	28	0
ミヤマカンスゲ	9	3.5%	3.8%	2.2%	23	0
オオカメノキ	4	3.0%	2.7%	1.5%	43	0

檜山 17 は、木古内地区のブナ林に設定されている。ブナの優占度は高いが、ミズナラなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生し、ハイイヌガヤが優占する。今年度の調査では、立木の本数密度、下枝本数は前回から微減した。下枝食痕率は6%だった。新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は9本/200㎡で、食痕率は0%だった。林床のクマイザサの被度は7.3%で、林床の現存量の指数は減少した。ササの食痕率は0%だった。本調査区ではシカによる林分構造や林床植生への影響は、ほとんど見られない。

## 檜山 18 の結果概要 知内 4269 林班と小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
ブナ林	斜面中	西	1/1/1	1/2/2	H22.8.24/H30.7.11/R5.9.8
毎木	本数密度 (ノ200 m <sup>2</sup> )	小径木本数	新規食痕数：下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	36/32/30	18/16/14	0:35/11:24/5:18		37%/46%(46)/28%(11)
毎木	BA (m <sup>2</sup> /ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	13.5/12.7/14.1		1(1)/0(0)/0(0)		0%(0)/0%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200 m <sup>2</sup> )	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	92 / 11 / 2		8%・61・7%/8%・61・0%/4%・48・19%		51/48/39
	稚樹食痕率 (夏季%)		総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%
	15%/27%(0)/0%(0)		60.7%・0.33/49.5%・0.35/44.2%・0.33		6%/15%/26%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカバ類を除く。※BA は胸高直径断面積合計値。

### 毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm <sup>2</sup> )	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ブナ	11	3476	5		
ケヤマハンノキ	2	1395	2		
ウワミズザクラ	1	295	1	1	
ヤマモミジ	4	183	2	1	1
ハウチワカエデ	8	149	5	3	1
合計	30	5636	18	5	2

### 稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数			食痕 3回目
	1回目	2回目	3回目	
ブナ	4	3	1	
キタコブシ	1	2	1	
ヤマモミジ	12	1		
アオダモ	7	2		
ハウチワカエデ	6			
総計	46	11	2	

### 林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
ハイヌガヤ	12	14.2%	24.3%	25.6%	82	7
ミヤマカンスゲ	9	7.7%	3.8%	5.5%	20	0
エゾユズリハ	4	2.5%	3.8%	4.8%	41	0
クマイザサ	16	8.1%	8.4%	3.5%	48	3
ヒカゲスゲ	5	5.1%	2.4%	2.5%	22	0
シシガシラ	9	4.5%	1.6%	0.9%	10	7
ハイヌツゲ	12	5.4%	0.5%	0.2%	12	3



檜山 18 は、知内地区のムズルセ林道沿いのブナ林に設定されている。調査地付近でシカ 2 個体が確認されたほか、林道沿いは顕著な樹皮剥ぎが認められた (ケヤマハンノキなど)。ブナが優占し、ケヤマハンノキなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生し、ハイヌガヤが優占する。立木の本数密度、小径木、下枝本数とも減少した。下枝食痕率は 28%、新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は急速に減少 (キタコブシ 2 本のみ)、食痕率は 0% だった。林床のクマイザサの被度は 4% で、林床の現存量の指数は減少した。ササの食痕率は 19% だった。本調査区ではシカによる林分構造や林床植生への影響がすでに顕著になっている。

## 檜山 20 の結果概要 碁盤坂 4198 林班へ小班

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	調査日
ブナ林	斜面中	西	1/1/1	1/2/2	H22.8.24/H30.7.11/R5.9.8
毎木	本数密度 (ノ200㎡)	小径木本数	新規食痕数: 下枝本数		新規下枝食痕率 (夏季%)
	83/74/64	47/36/29	4:45/14:48/0:34		9%/29%(29)/0%(0)
稚樹	BA (㎡/ha)		樹皮はぎ本数 (新規)		樹皮剥ぎ率 (新規%)
	39.3/39.1/41.3		2(0)/0(0)/0(0)		2%(0)/0%(0)/0%(0)
稚樹	本数密度 (ノ200㎡)	林床	ササ (被度・高さ・食痕率)		林床種数
	48 / 8 / 2		58%・107・30%/37%・101・5%/34%・97・20%		32/29/28
稚樹	稚樹食痕率 (夏季%)	林床	総被度%・現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>		林床食痕率%
	17%/38%(0)/0%(0)		104.4%・0.86/53.6%・0.50/41.6%・0.39		7%/22%/17%

※数値は左から、初回調査/2回目調査/3回目調査 (今年度調査は太字) を示す。※小径木、稚樹、食痕率は針葉樹を除く。樹皮はぎはカシバ類を除く。※BAは胸高直径断面積合計値。

### 毎木調査結果-主な樹種

種名	本数	BA(cm <sup>2</sup> )	下枝本数	食痕数	樹皮はぎ数
ホオノキ	7	9205	1		
ナナカマド	18	3463	15		1
シナノキ	35	1628	18		2
ハクウンボク	1	1175	0		
ケヤマハンノキ	2	906	0		
合計	64	16519	34		3

### 稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 1回目	本数 2回目	本数 3回目	食痕 3回目
ブナ	11	6	2	
ハウチワカエデ	4	1		
ベニイタヤ	4			
ウワミズザクラ	3			
コシアブラ	1			
総計	24	8	2	

### 林床植生調査結果-主な植物

種名	出現区数 3回目	被度%			高さcm 3回目	食痕数 3回目
		1回目	2回目	3回目		
クマイザサ	20	58.0%	37.4%	34.2%	97	4
ブナ	5	0.0%	2.5%	1.9%	151	0
ミヤマカンスゲ	18	0.3%	2.2%	1.3%	14	0
ツルアリドシ	20	0.6%	1.3%	1.0%	7	0
アクシバ	12	3.7%	1.2%	0.8%	23	2
オオバクロモジ	14	7.6%	2.4%	0.7%	18	8
エゾユズリハ	3	2.0%	0.4%	0.4%	26	0



檜山 20 は、福島峠近くの林道沿いの広葉樹林に設定されている。ホオノキが優占し、ナナカマド、シナノキなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生～密生する。今年度の調査では、立木の  
本数密度、小径木数、下枝本数は減少した。下枝食痕率は0%、新規の樹皮剥ぎは見られなかった。  
広葉樹の稚樹は減少し、食痕率は0%だった。林床のクマイザサの被度は減少し、林床の現存量の指  
数も減少した。ササの食痕率は20%だった。夏季の食痕は限定的だが、主に冬季のシカ採餌によっ  
て林分構造や林床植生への影響が蓄積しつつある。